

事務 事業名	コード1	31200	公園維持管理費	課	都市整備課			
	コード2			所属班	街路公園班			
			☐ 主要事業	電話番号	62-5354	内線	*457	
施策 体系	基本方針	2	快適でうるおいのあるまちづくり	予算	会計		款	項
	施策	6	公園の維持管理と緑化の推進	科目	一般会計		8	3
	施策の展開	1	都市公園の維持管理	根拠	都市公園法、旭市立公園条例			
	基本事業	105	都市公園の維持管理	法令				

1 現状把握(Do)

(1) 事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるように記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☐ 平成 年度～ ☒ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述→	公園の維持管理及び施設の新設工事を行う。【公園の種類・箇所数】①袋公園・旭スポーツの森公園・旭文化の杜公園などの都市公園(10箇所)、②海上コミュニティ運動公園・三川ふれあい公園・万歳自然公園などのその他の公園(7箇所)、③宅地開発の際に帰属された公園(通称:宅造公園)43箇所、④海岸トイレ(3箇所)【維持管理業務内容】①公園内の清掃、除草、樹木の管理(剪定・施肥・薬剤散布)、芝生の管理(芝刈・施肥・薬剤散布)を行う、②遊具・トイレなど施設の点検、補修、改修、修繕を行う、③公園利用者及び周辺住民から寄せられる要望・苦情等への対応・処理を行う。【公園施設】四阿、遊具、案内看板等 【業務の流れ】 【維持管理業務】 ①業務委託事務(契約→監督→検査) ②施設の点検・修理 ③要望等への対応 ④公園の占用許可及び使用許可 【施設新設工事】 ①現場確認→②設計積算→③発注→④施工管理→⑤検査→⑥支払い

(2) トータルコスト

① 事業費の内訳(25年度の実績)	単位:千円
1.委託料	40,873 公園維持管理業務委託、除草業務委託など
2.需用費	20,022 維持補修費、光熱水費など
3.使用料及び賃借料	9,578 土地等借上料、下水道使用料など
4.その他	3,661 工事費など
	0
【歳入】行政財産使用料891千円、公園占用使用料49千円	
② 延べ業務時間の内訳(25年度の実績)	単位:時間
・見回り・点検・補修・要望対応事務 1,200時間 ・業務委託事務(積算・契約・監督・検査) 500時間 ・新設工事発注事務(積算・契約・監督・検査) 200時間 ・許認可事務 50時間 ・各種調査物などへの回答 50時間	

事業費	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
1.委託料	千円	40,022	38,846	40,873	57,170
2.需用費	千円	14,157	20,476	20,022	21,592
3.使用料及び賃借料	千円	8,241	9,134	9,578	9,737
4.その他	千円	28,411	6,184	3,661	25,604
	千円				
事業費計(A)	千円	90,831	74,640	74,134	114,103
うち一般財源	千円	70,703	74,591	73,194	114,056
正規職員従事人数	人	0.90	1.00	0.99	0.99
延べ業務時間	時間	1,820	2,020	2,000	2,000
人件費計(B)	千円	6,916	7,676	7,600	7,600
トータルコスト(A)+(B)	千円	97,747	82,316	81,734	121,703

(3) 事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	25年度実績(25年度に行った主な活動) ・公園の維持管理(清掃・除草・樹木管理・芝生管理・施設点検・施設修繕) ・公園施設等設置工事 26年度計画(26年度に計画している主な活動) ・公園の維持管理(清掃・除草・樹木管理・芝生管理・施設点検・施設修繕) ・公園施設等設置工事	ア 施設数(都市公園・その他の公園)	箇所	17	17	17	17
		イ 施設数(宅造公園)	箇所	38	41	43	43
		ウ 海岸トイレ	箇所	3	3	3	3
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・都市公園 10箇所 ・その他の公園 7箇所 ・宅造公園 43箇所 ・海岸トイレ 3箇所	ア 管理面積(都市公園・その他の公園)	ha	49.20	56.86	56.86	56.86
		イ 管理面積(宅造公園など)	百㎡	88	92	96	96
上位目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・利用者が安全で快適に利用できる	ア 意見・苦情・要望(処理件数の推移)	件	58	73	65	50
		イ					
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けられるのか	⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	23年度 (決算)	24年度 (決算)	25年度 (決算)	26年度 (計画)
	・公園を利用することで、市民の生活環境に快適性と活力と潤いを創出し、より文化的で健康的な暮らしを送れるようになる。	ア 公園に対する利用満足度(利用者アンケート)	%	※H22 50.7%	データ 未把握	データ 未把握	H27実施予定(目標値 60%)
		イ					

(4) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
・都市公園に関しては旭市都市公園条例(昭和51年旭市条例第21号)の制定に伴って開始。 ・その他公園については都市公園条例制定前から維持管理を行っている。	・近年、労務単価および資材単価のアップにより維持管理費が増えている。・公園施設の老朽化に伴って修理が必要な施設があるが、財政事情から修理が実施できず使用禁止となっている施設が増えている。・公園維持管理に対する利用者の要求水準が増大している。	公園利用者から主に下記の意見や要望が寄せられている。 ・遊具・施設の充実 ・除草・清掃作業の実施 ・樹木の害虫駆除 ・利用禁止及び制限の緩和(スケボーなど)

事務事業名	公園維持管理費	課名	都市整備課	班名	街路公園班
-------	---------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 施策体系との整合性 この事務事業の目的は市の施策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 結びついている ⇒【理由】 ・公園施設を適正に維持管理することで利用環境が整い、公園利用者の満足度や快適さが向上するため、快適でうおいのあるまちづくりにつながる。
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 適切である ⇒【理由】 ・都市整備課が管理するすべての公園が対象となっているため、適切である。(公園としては他に児童遊園や農村公園があるが、設置経緯及び利用実態が異なることから、都市整備課において同様の管理を行うことは難しい。)
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 妥当である ⇒【理由】 ・都市公園については都市公園法に基づき市が管理者である。宅造公園についても開発行為の中で市に寄贈し管理することとなっている。また、その他の公園についても設置条例に基づいて設置しており、市が管理を行うことは妥当である。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 ・予算の範囲内で一定水準の維持管理を行っていると考えているが、目標水準(要望件数 年50件程度 H24年度比で3割減)には達していない。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？成果の向上余地はどの程度あるか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 ・公園施設の中長期的な維持管理計画を立て施設の長寿命化を図ることにより、公園施設を安全で快適な状態に保つことができ、結果として意見・苦情・要望件数の削減(満足度のアップ)に繋がる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある ↳ (1) 事務事業名：(児童遊園維持管理費/農村公園維持管理費/海岸トイレ維持管理費) (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☒ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 ・他の公園の所管課と協議し、すみ分けについて調整済。児童遊園は子育て支援課が、農村公園については農水産課が、海岸トイレ(都市整備課が管理する3つの施設以外)は商工観光課が、それぞれ所管し、維持管理を行っている。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 ・委託業務の発注方法や更なる内容の見直しによって委託費の軽減を図る。 ・公園施設の中長期的な維持管理計画(修繕計画)の策定により、修繕費などの軽減が図れる。 (但し、公園台帳の追加情報の調査等の初期投資が必要)
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 ・事務量は変わらないが配属職員数が減少しているため、延べ業務時間の削減は難しい。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 ・誰もが快適に利用することを目的に維持管理を実施しているため、公平・公正である。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1)1次評価者としての評価結果		(2)全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	公園利用者の要求水準が高まっており、今後の公園維持管理について工夫が必要。具体的には、公園施設の中長期的な維持管理計画を立て、施設の長寿命化を図り、公園施設を安全で快適な状態に保つことで、意見・苦情・要望件数の削減(満足度のアップ)及び事業費の削減を図る必要がある。
② 有効性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
③ 効率性	☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	
④ 公平性	☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1)今後の事業の方向性(複数選択可)		※2～3年後を目処にした方向性			(3)改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要)																								
☐ 目的再設定		☐ 行政関与の見直し			<table border="1"><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>						コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持				低下			
		コスト																											
		削減	維持						増加																				
成果	向上		○																										
	維持																												
	低下																												
☒ 事業のやり方改善による成果向上		☐ 事業統廃合・連携(関連事業:)																											
☒ 事業のやり方改善による事業費削減		☐ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減																											
☐ 受益機会の適正化		☐ 費用負担の適正化																											
☐ 廃止・休止																													
(2)改革改善案について																													
いつまでに		※いつまでに、なにを、どうするのか？																											
		なにを、どうするのか？																											
①平成26年度		①委託内容の見直しを行い、来年度予算へ反映させる。清掃・除草・剪定などの実施回数・実施方法・単価などの見直し。				②公園台帳の追加情報調査を実施し、公園台帳管理システムを構築する。		③長寿命化計画を策定する。																					
②平成27年度																													
③平成28年度																													
(4)改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策																													
①労務費・資材単価が高騰しており、委託内容の見直しを実施しても事業費の削減は難しい。																													
②、③公園台帳管理システムの構築及び長寿命化計画の策定には専門性が必要であり、外部委託の初期投資が必要となる。																													